

お医者さんの人生も、おだいじに。

I B A R A K I D o c t o r s L i f e

総合パンフレット 2019年4月版





CONTENTS

- センター長ごあいさつP1
- 茨城の医療についてP2
第7次 茨城県保健医療計画(2018年度~2023年度)
- 茨城県地域医療支援センターについて.....P3
- キャリア支援制度P4
- 医学部進学に対する支援P5
～修学資金制度～
- 医学部進学に対する支援P6
～教育ローン利子補給事業～
- 医学生に対する支援.....P7
～セミナー・研修事業～
- 一般若手医師対象事業P8
- 新専門医制度について.....P9
- 若手医師に対する支援P10
～キャリア形成支援～
- 茨城県は、医師のUIJターンを推進していますP11
- 女性医師を応援しています.....P12
- 組織・スタッフ体制P13



センター長ごあいさつ



茨城県地域医療支援センター

センター長 小島 寛

(筑波大学医学医療系教授、茨城県立中央病院 副院長)

略歴 1984年 3月 筑波大学医学専門学群卒業
1990年 6月 筑波大学講師(血液内科)
2001年 11月 筑波大学准教授(血液内科)
2008年 12月 茨城県立中央病院化学療法センター長
2011年 7月 茨城県立中央病院副院長
2014年 4月 筑波大学教授
(筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター・腫瘍内科)

茨城県では若手医師の研修体制の充実、キャリア形成支援を目的として、2012年4月に地域医療支援センターが設立されました。それ以来、県と筑波大学等の大学そして地域の医療機関が連携して、若手医師が県内で安心して研修を受けられるように教育システムや研修環境を整備してきました。皆さんご存知のとおり茨城県は医師不足県ですので、県職員や指導的立場にある医師は、地域医療支援センターの事業に熱意をもって取り組んでくれましたし、私自身も同センター設立当初からこの事業に関わってきました。

県が筑波大学、東京医科大学等における地域枠制度の拡充に努めた結果、2018年度以降は毎年30名以上の茨城県修学生(地域枠学生および一般修学生)が卒業を迎え、特に2021年度以降は卒業する修学生数が毎年50名を超える見込みです。従って県内の医師不足の状況は今後徐々に改善されることが期待されますが、可住地面積が広い茨城県では、医師の絶対数が足りないこと以上に医師の偏在が大きな問題です。特に日立～常陸太田・ひたちなか、鹿行、筑西・下妻～古河・坂東医療圏は、医療過疎といっても過言でないような状況であり、各医療圏において拠点となる医療機関を整備するとともに十分数の医師を配置し、医療の高度化を図ることが喫緊の課題です。質の高い卒後臨床研修を担保しながら医師不足地域での医療の高度化、医師の適正配置を成し遂げるには、多くの専門研修プログラムをもつ筑波大学との協力が不可欠です。筑波大学等の医育機関と連携のもと、綿密な医師確保計画の策定とこれに基づく医師の適正配置に取り組んでいくことが、今後の地域医療支援センターの重要なミッションになります。

茨城県では県、大学、地域医療機関が一体となり、「オールいばらき」の体制で研修制度の充実、地域医療の高度化に努めていますので、若手医師の皆さんは安心して質の高い研修が受けられるものと確信しています。皆さんとともに茨城の医療を前進させるとともに、医療の第一線で活躍できる臨床能力の高い医師を育てて行きたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

2019年4月



茨城の医療について

第7次 茨城県保健医療計画（2018年度～2023年度）

茨城県の医師数の状況

平成28(2016)年12月31日現在(医師・歯科医師・薬剤師調査)で、5,513人となっており、人口10万人対189.8人と全国平均251.7人を大きく下回り、全国46位と低位の状況にあります。

県内の二次保健医療圏別では、つくば保健医療圏が410.4人と全国平均の251.7人を上回る一方、鹿行保健医療圏、筑西・下妻保健医療圏、常陸太田・ひたちなか保健医療圏では全国平均の半分に満たないなど、医師の地域偏在がみられます。

また、女性医師の割合が年々増加傾向にあり、特に40歳未満における女性医師の割合は3割を超えているとともに、5割以上が女性医師の診療科もあります。

本県では、平成18年に医師修学資金貸与制度を、また、平成21年に地域医療医師修学資金貸与制度(地域枠)を開始し、以降、順次、設置大学や定員の拡大を図ってきました。そのため、平成37(2025)年度には、県内で勤務する修学生医師が400人を超える見込みとなっています。

課題

県内で従事する医師の確保と定着の促進及び医師の地域偏在の解消を図る必要があり、また、医師が仕事と育児等を両立できる環境を整備し、就業を継続することができるよう支援するとともに、医師の定着促進を図るため、研修体制の充実など魅力的な医療勤務環境づくりを更に進める必要があります。



茨城県の医師確保 取り組みと目標

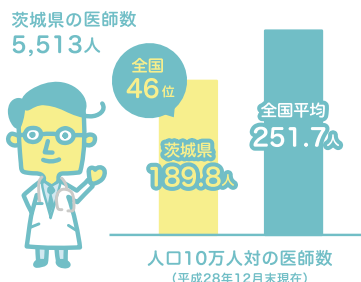
茨城県は、県内で従事する医師の確保と定着のため、目標を定め各施策に注力しています。

対策

- 医師の養成・確保、地域偏在・診療科偏在の解消
- 魅力ある勤務環境の整備
- 医療勤務環境の改善促進
- 医師の養成・確保のための規制緩和等に係る要望活動

目標

- 県内医師数6,400人を確保できるよう、各種施策に取り組みます。
- 本県高等学校出身の医学部進学者の増を目標として、医師の学校訪問や医学生との交流など各種施策を実施します。
- 初期臨床研修医の県内臨床研修病院へのマッチング者数の増を目標として、臨床研修病院及び医師会と連携し、合同説明会の開催など各種施策を実施します。
- 医師修学資金及び地域医療医師修学資金を活用して卒業した若手医師の県内定着率90パーセントを目標として、地域医療支援センターによるキャリア形成支援など各種施策を実施します。



茨城県の救急医療体制

初期救急医療 初期救急医療は、外来診療によって救急医療を行う地域に最も密着した医療であり、比較的軽症の救急患者に対応するため、12ヶ所の休日夜間救急センターや地域の開業医が当番制で診療を行う在宅当番医制病院等により、市町村単位で実施しています。

第二次救急医療 第二次救急医療は入院治療を必要とする重症救急患者に対応するための医療であり、県内を11の地域に分けて地域内の病院が輪番制方式により実施する病院群輪番制と、水戸地域の救急医療二次病院による二次救急医療体制を基本に実施しています。

- 輪番制(水戸地域を除く全域)
10地域 輪番制病院:49施設
- 水戸地域(11市町村)
救急医療二次病院:17施設

第三次救急医療 第三次救急医療は、第二次救急医療では対応困難な重篤な救急患者に対応するため、救命救急センターや地域救命センターにおいて、24時間365日体制で受入れ高度な医療を提供するとともに、本県独自のドクターヘリ運航や隣県ドクターヘリとの連携によって、救急患者の救命率の向上と後遺障害の軽減を図っています。

- 救命救急センター……………(6施設)
※ドクターヘリ基地病院含む
- ★ ドクターヘリ基地病院……………(2施設)
- 地域救命センター……………(1施設)

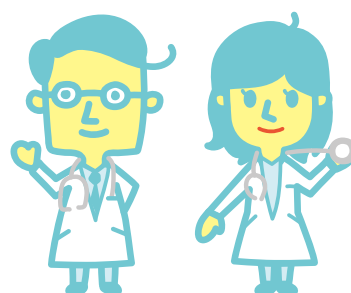


茨城県地域医療支援センターについて

茨城県では、医師修学資金や県地域枠の卒業医師をはじめとする若手の医師の皆さんが県内の医療機関で充実した勤務を過ごしながら自分の希望に応じたキャリアアップが図れるよう、若手医師の皆さんを大きくサポートする「茨城県地域医療支援センター」を平成24年4月に設置しました。

地域医療支援センターでは、本県の医療に精通したベテラン医師であるキャリアコーディネーターとの面談による情報提供、各種相談などのキャリア形成支援をはじめ、地域医療のために必要な手技から最先端の高度医療まで、若手の内に学ぶべき知識や経験を取得できるよう、県内の医療機関、県医師会、筑波大学をはじめとした地域枠設置大学が一体となって、若手の医師の皆さんを支援しています。

是非、本県の地域医療で医師としてのスタートを切ってみてはいかがでしょうか。
茨城県は、皆様をお待ちしています。



茨城県地域医療支援センターが育成する医師像

プライマリケアに広い知識・経験を有し、全ての医療場面において指導的立場から茨城の地域医療に貢献できる医師を育成する。

到達目標設定

1) 2年終了時

あらゆる疾患に対する初期対応(問診、診察、検査、処置、治療、上級医への相談)ができる。また、初期研修医への適切な指導ができる。

2) 4年終了時

全ての初診および救急患者に対する初期対応に加えて、患者のかかえる問題を解決するための検査、治療計画を自ら立案できる。

3) 6年終了時

救急を含む全てのコモンプロブレムに適切に対応し、チーム医療の中心的役割を果たすことができる。また、自らの専門領域においても適切な検査、処置、治療を行うことができ、なおかつ高度医療に貢献できる。

4) 9年終了時

優れた指導能力を有するとともに、今後の医師としてのキャリアの中で、茨城県の医療にどのような形で貢献できるのか、自らの将来計画を具体的に描くことができる。

茨城県地域医療支援センターの取り組み

1) 地域枠医師等のキャリア形成支援

キャリアコーディネーターとの個別面談や情報提供を通じ、キャリアパスの作成・提示、専門医・認定医資格の取得支援等

2) 医師不足地域の病院等への医師の派遣事務

修学生医師、地域医療に従事する希望のある医師の派遣事務

3) 地域医療に従事する医学生・医師の支援

地域医療の現場に触れる修学生セミナーや修学生の集いの開催

4) 総合相談窓口の設置と情報発信

県内医療事情の紹介や相談など総合相談窓口の設置

5) 指導医の養成と研修体制の整備

指導医の養成支援、地域医療に従事するために必要な技術取得のための研修会等

6) 地域医療関係者との意見調整

県内医療関係者が一体となって取り組むための意見調整



キャリア支援制度



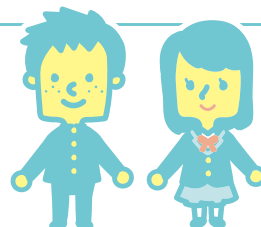
地域医療支援センターでは、医学の道を志す高校生、医学の道へ進む医学生、地域医療に従事する若手医師を様々な支援制度で全面的にバックアップします

高校生

□県内高校生の医学への興味と本県の医療状況への理解を深め、医学部進学者の増加と県内への医師の定着を促進する

【医学への興味涵養】

- 高校訪問(高校への医師派遣)
- 大学説明会／自治・地域枠大学・修学資金制度等の説明



医学生

□医学生が夢や希望を持てるよう地域医療に対する意欲を醸成する

【医学部進学に対する支援】

詳しくは5・6ページ

- 医師修学資金・地域医療医師修学資金・海外対象医師修学研修資金の貸与
- 医学部進学者向け教育ローン利子補給事業

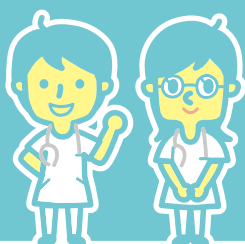
【一般医学生対象事業】

- キャリア相談
- 研修会

【修学資金を受けている医学生対象事業】

詳しくは7ページ

- 個別面談(必須)
- サマーセミナー・スプリングセミナー(必修)
- 修学生の集い(必修)
- 新入生オリエンテーション(必須)



医師

□若手医師が安心して本県の地域医療に従事できるようキャリア形成の支援やセミナー・研修事業等による支援を行う

【一般若手医師対象事業】

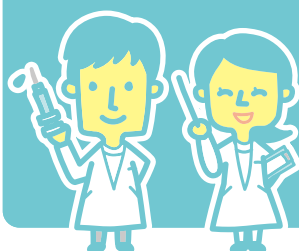
詳しくは8ページ

- キャリア形成に係る相談、支援等
- 医師海外派遣事業(短期・中・長期)
- シミュレーショントレーニング事業
- 実力派講師による診療技術指導(教育回診)
- 指導医養成講習会
- 医療技術研修会
 - ・JMECC講習会
 - ・エコーハンズオントレーニング
 - ・救急ライセンス研修

【修学資金を受けている若手医師対象事業】

詳しくは7ページ

- 個別面談(必須)・キャリア形成支援
- 修学生の集い・症例発表会(必修)
- ※その他、一般若手医師対象事業への参加も可能





医学部進学に対する支援 ～修学資金制度～



医学の道に進む学生を修学資金制度で全面的にバックアップします。

医師修学資金の貸与

- 対象者: 次の(1)又は(2)のいずれかに該当する者
 - (1) 茨城県外の大学の医学部に在籍する者で、次のいずれかに該当する者
 - ① 茨城県内の高等学校等を卒業した者
 - ② 茨城県内に居住する者の子
 - (2) 筑波大学医学群医学類に在学する者(県外出身可)
- その他の条件: 地域医療支援センターが主催する各種セミナーや個別面談などに必ず参加できる者
- 貸与額: 月額15万円 ■募集人数: 20名(2019年度)

県内医師不足地域の医療機関で貸与期間と同期間(臨床研修期間を含む)医師として勤務した場合は、返還を免除(※貸与期間が3年未満の場合は3年間)

(参考) 医師不足地域

「医師不足地域」として該当する二次保健医療圏(左図の色塗りの市町村)

- 水戸 ●日立
- 常陸太田・ひたちなか
- 鹿行 ●筑西・下妻
- 古河・坂東



地域医療医師修学資金の貸与(地域枠)

【茨城県内対象】

- 対象者: 次の(1)又は(2)のいずれかに該当する者
 - (1) 茨城県内の高等学校等を卒業した者
 - (2) 茨城県内に居住する者の子
- その他の条件: 地域医療支援センターが主催する各種セミナーや個別面談などに必ず参加できる者
- 貸与額: 国立大学: 月額20万円、私立大学: 月額25万円
- 地域枠定員: 7大学43名(2019年度) ※うち筑波大学26名

【全国対象】

- 対象者: 筑波大学の出願資格を満たす者
- その他の条件: 地域医療支援センターが主催する各種セミナーや個別面談などに必ず参加できる者
- 貸与額: 月額20万円
- 地域枠定員: 筑波大学 10名(2019年度)

県内の医療機関で9年間(臨床研修期間を含む)医師として勤務した場合は、返還を免除(9年のうち1/2以上は医師不足地域に勤務、臨床研修終了後、知事の定める医療機関で勤務)

海外対象医師修学研修資金の貸与

- 対象者: 外国の医学校に在学する者(県外出身可)
- その他の条件: 地域医療支援センターが主催する個別面談などに必ず参加できる者
- 貸与額: 修学資金: 月額15万円、研修資金: 150万円
※研修資金は、県内医療機関で実習開始時に貸与
- 募集人数: 修学資金、研修資金ともに10名(2019年度)

県内の医療機関で貸与期間の2分の3に相当する期間(臨床研修期間を含む)医師として勤務した場合は、返還を免除(※研修資金の貸与を受けている場合は貸与期間に1年加算)(※義務期間が3年未満の場合は3年間、9年以上の場合は9年間)



医学部進学に対する支援

～教育ローン利子補給事業～

医学部進学者向け教育ローン利子補給事業とは？

大学に通っている間に銀行に返すのは利子分のみ！しかも毎年、利子分と同額が県から契約者に支払われます！！

借りたお金（元本）は、医師になってから自分で返せます！

医師になってから10年以内に2年間、県内で勤務する必要があります。



どんな支援が受けられるの？

茨城県内の高等学校等を卒業後、平成31年度以降に医学部へ進学する方の保護者等で、県内に1年以上在住している方が協定締結金融機関から医学部進学のための教育ローンの融資を受けた際に、その支払利息について補給金を交付します。

●利子補給事業の対象要件

■対象者：①茨城県内の高等学校等を卒業後、平成31年度以降に医学部へ進学する方の保護者等で県内に1年以上在住している方、かつ②茨城県と協定を締結した金融機関から、医学部進学のための教育資金の融資を受けている方

■対象借入限度額：3,000万円 ■利子補給率：100%（保証料等含む） ■利子補給期間：正規の修学期間（最大6年間）以内

※利子補給は、年に一度です。 ※融資対象や対象借入限度額については、金融機関によって、審査基準上独自の条件を設定している場合があります。 ※卒後10年以内に県内医療機関に2年間以上勤務しなかった場合は、利子補給金を返還いただきます。 ※年間50名程度（※平成31年度以降の医学部入学者が対象）への交付を予定しております。 ※茨城県医師研修資金、茨城県地域医療医師研修資金及び茨城県海外対象医師研修研修資金、その他就労義務を伴う奨学金や利子補給金との併用はできません。

どの金融機関で借りればいいのか？

この事業に賛同し、茨城県との間で協定を締結した次の金融機関で借り入れた場合を、利子補給金の交付対象とします。

●協定締結金融機関

株式会社常陽銀行

株式会社筑波銀行

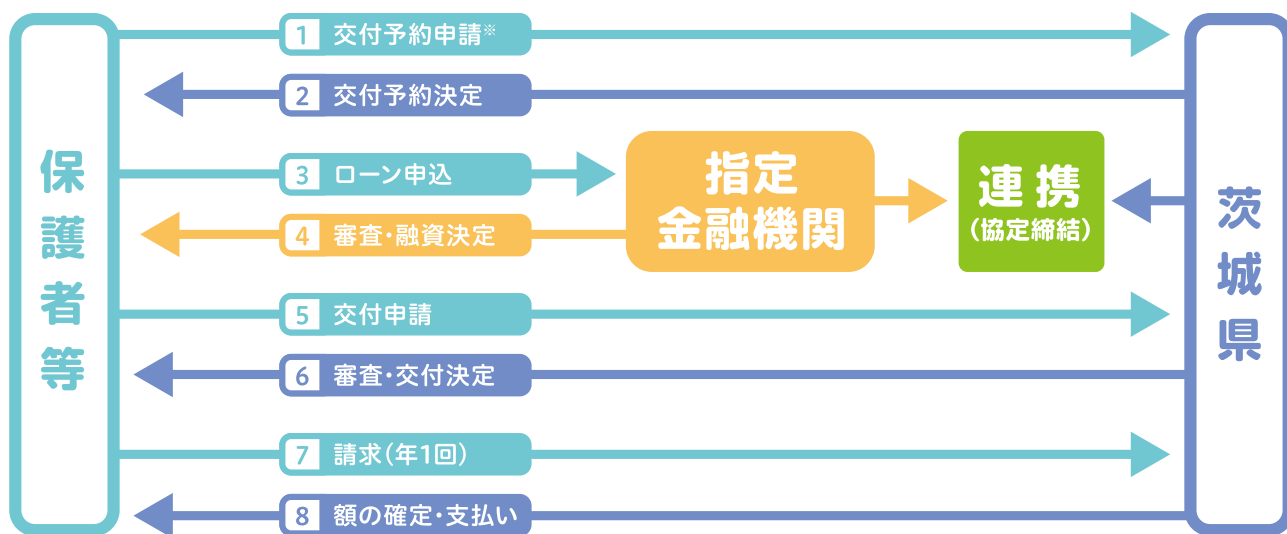
茨城県信用組合

水戸信用金庫

結城信用金庫

※平成31年4月現在

制度の手続きの流れは？



※交付予約申請は任意となります。



医学生に対する支援 ～セミナー・研修事業～



医学生が夢や希望を持てるよう地域医療に対する意欲を醸成します

修学生セミナー

●サマーセミナー (H30実績)

【1～2年生】

- 開催日:平成30年8月17日(金)～8月18日(土)
- 場所:鹿行医療圏 ■参加者:47名
- 内容:病院見学、グループディスカッション、地域で活躍する医師による講演等

【3～4年生】

- 開催日:平成30年8月9日(木)～8月10日(金)
- 場所:土浦医療圏 ■参加者:26名
- 内容:病院見学、グループディスカッション、地域で活躍する医師による講演等

【5年生】

- 開催日:平成30年8月7日(火)～8月8日(水)
- 場所:太子町 ■参加者:10名
- 内容:太子町内医療機関見学・現場体験、意見交換会等

【6年生】

- 開催日:平成30年8月19日(日)
- 場所:常陸大宮済生会病院 ■参加者:15名
- 内容:茨城県地域医療学術集会に参加

●スプリングセミナー (H30実績)

【1～2年生】

- 開催日:平成31年3月14日(木)～15日(金)
- 場所:土浦医療圏 ■参加者:59名
- 内容:病院見学、グループディスカッション、地域で活躍する医師による講演等

【3～5年生】

- 開催日:平成31年3月16日(土)～17日(日)
- 場所:古河・坂東・筑西・下妻医療圏 ■参加者:70名
- 内容:病院見学、グループディスカッション、地域で活躍する医師による講演等

～H30参加者の声～

- 修学生であっても、将来の選択が多く、9年間に有意義に考えられるようになった。
- 先生の講話で、医師のキャリアについて具体的なイメージが掴めた。
- 地域医療は地域を好きになることなのだと感じた。私もそんな医師になりたい。



修学生の集い

- 開催日:平成30年12月29日(土)
- 場所:ホテルレイクビュー水戸
- 239名(修学生、修学生医師、その他医療関係者等)
- 内容:・修学生医師等による症例発表会
・学生企画 ・交流会

～H30参加者の声～

- さまざまな分野の症例を聞くことができ、知識を増やせた。学会のような発表が多く、レベルが高い。
- 学生に対しても分かりやすいレジュメと発表でとても勉強になった。
- いろいろな大学の学生や先生方と関わるいい機会だった。



修学生個別面談

卒業後のキャリア形成などについて、キャリアコーディネーターによる個別面談を実施

新入生向け事業

【新入生オリエンテーション】

- 開催日程:平成31年3月27日(水)



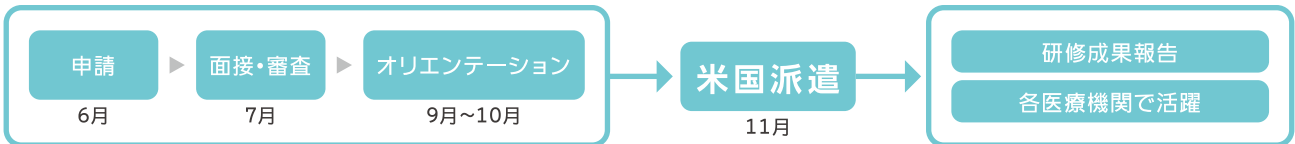
一般若手医師対象事業



医師海外派遣事業(短期)

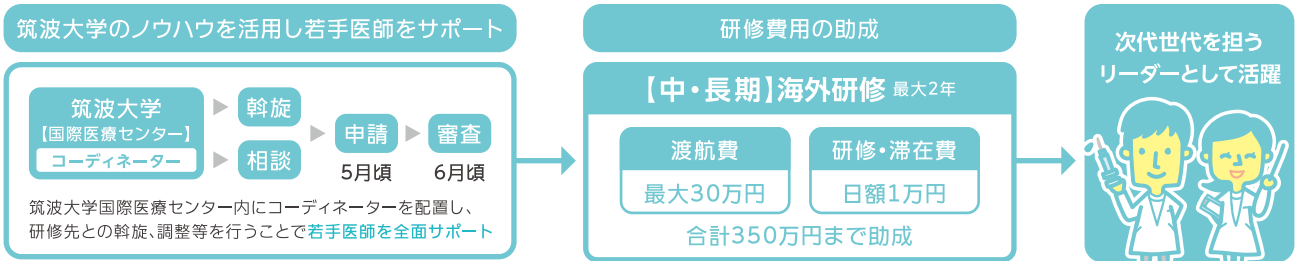
県内の意欲ある指導医を米国ハワイに10日間程度派遣し、当地の医療現場や医療施設などで世界標準の指導教育方法を学んでいただきます。
対象:県内医療機関に勤務する指導医等 募集人数:4名(H30実績:5名)

公益財団法人日米医学医療交流財団の当地とのパイプを生かし、他では実現できない充実したプログラムを構築



医師海外派遣事業(中・長期)【グローバル人材育成プログラム】

茨城県では、高い倫理観と地域医療への使命感を持った若手医師を欧米等の医療現場へ派遣することにより、国際感覚・高度な技術を習得した優秀な人材を育成します。
対象:県内外の医師 募集人数:3名程度(H30実績:6名)



シミュレーショントレーニング事業

地域医療に従事しながら最新の医療技術をしっかりと身に付けることができるよう、最先端のシミュレーション機器である、SimMan3G、超音波診断ファントム(腹部エコー)、アキュタッチシステム(内視鏡)といった最先端のシミュレーション機器を県内の医療機関に巡回させます。

巡回医療機関:各病院の希望により調整

巡回機器: SimMan3G
(患者シミュレータ)

超音波診断ファントム
(腹部エコー)

アキュタッチシステム
(内視鏡トレーニング器)

診療技術指導(教育回診)

総合診療科の第一人者である徳田安春先生が、県内の各医療機関を巡回し、直接、先進的かつ実践的な指導を実施します。

期日:①2019年6月3日(月)~5日(水)

②2019年10月28日(月)~30日(水)

時間:1医療機関あたりおおむね2時間(希望により調整します)

場所:県内医療機関 対象:若手医師

内容:●講義/ミニレクチャー、ベッドサイドレクチャー

●症例発表/研修医が発表する具体的症例に基づいたカンファレンス

指導医養成講習会

本県の臨床研修病院等の指導技術の向上を図るため、国のガイドラインに基づいた講習会を開催します。

日程・場所:2019年7月6日(土)~7日(日) 筑波大学

対象:県内の医師 募集人数:各回 50名 受講料:各回3,000円

2020年2月8日(土)~9日(日) 茨城県医師会

医療技術研修会

地域医療に従事するうえで必要となる総合的な診療能力を養成するため、県内医療機関等と連携し医療技術研修会を実施。

JMECC講習会

日程……未定(調整中)

場所……県内医療機関

対象……茨城県内の指導医、研修医

募集人数…各回 6名

受講料… 各回10,000円

Eコーハンズオントレーニング

日程……2019年11月~12月頃

場所……水戸済生会総合病院

対象……県内の若手医師

募集人数… 9名程度

受講料… 10,000円

救急ライセンス研修

日程…BLS 2019年6月1日(土)

2019年6月2日(日)

2019年7月27日(土)

2019年7月28日(日)

ACLS 2019年7月27日(土)~28日(日)

2019年8月11日(日)~12日(月)

2019年9月22日(日)~23日(月)

場所……水戸医療センター
筑波大学

対象……初期研修医等

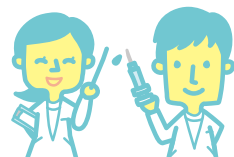
募集人数…各回30名

受講料… BLS14,500円

ACLS30,000円



新専門医制度について



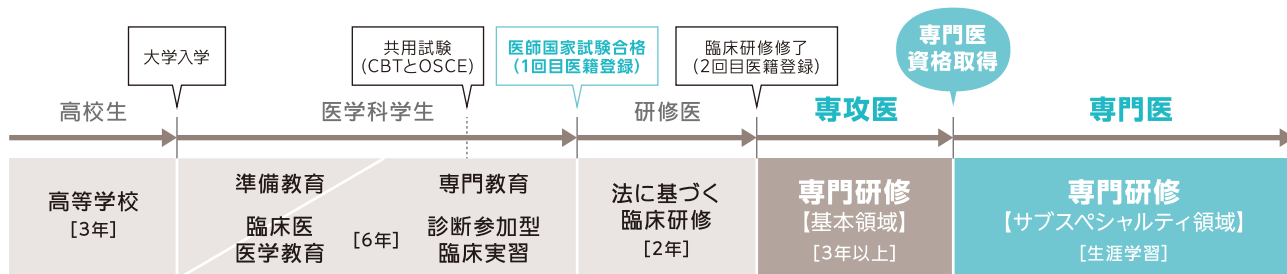
新専門医制度とは

新専門医制度は、研修制度の拡充を目的に制定され、平成30年4月から開始されました。

旧制度では各学会にある専門医の認定基準が統一されておらず、質にばらつきがあることが問題でした。そこで、日本専門医機構が中心となって、専門医の認定と養成プログラムの評価・認定を統一を行い、一定の技量を身につけたことを証明できる制度になりました。新専門医制度では、19の基本領域からいずれか1つの専門医資格を取得し、サブスペシャリティ領域でより深く学んでいきます。これまで「後期研修」と言われてきたものが「専門研修」となりました。



専門医になるまでの流れ



19の基本領域

内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療

サブスペシャリティ領域

内科系 消化器病、循環器、呼吸器、血液、内分泌代謝、糖尿病、腎臓、肝臓、アレルギー、感染症、老年病、神経内科、リウマチ、消化器内視鏡、がん薬物療法

外科系 消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺、内分泌外科

その他 放射線治療、放射線診断

※H31.2月時点の情報です。

2020年度専攻医募集の日程(予定)

一次登録

2019年9月上旬募集開始(予定)



▶ 詳しくはこちら 一般社団法人 日本専門医機構 <http://www.japan-senmon-i.jp>

茨城県では、これから専門医を目指す皆さんが、県内で充実した専門研修を実施できるよう各基幹施設がプログラムを用意しています。(詳細はWEBサイトをご覧ください)



▶ 詳しくはこちら <https://ibaraki-dl.jp/about/senmoni/>

茨城県の各領域の基幹施設一覧

病院名／領域	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査	救急科	形成外科	リハビリテーション科	総合診療
総合病院水戸協同病院	●					●													
水戸済生会総合病院	●																		
独立行政法人国立病院機構水戸医療センター	●				●														
茨城県立中央病院	●				●														●
株式会社日立製作所日立総合病院	●				●														
株式会社日立製作所ひたちなか総合病院	●				●														
総合病院土浦協同病院	●	●			●		●												
筑波記念病院	●				●														
筑波大学附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
東京医科大学茨城医療センター	●																		
JAとりで総合医療センター	●																		
筑波メディカルセンター病院																●			●
茨城県立こども病院		●																	
茨城県立こころの医療センター				●															
栗田病院				●															
北茨城市民病院																			●



若手医師に対する支援 ～キャリア形成支援～



地域医療に従事しながらも、専門医や認定医の資格が取得できるよう、
生涯にわたるキャリア形成を支援します

キャリア形成支援の特徴

専任医師による
個別面談の実施

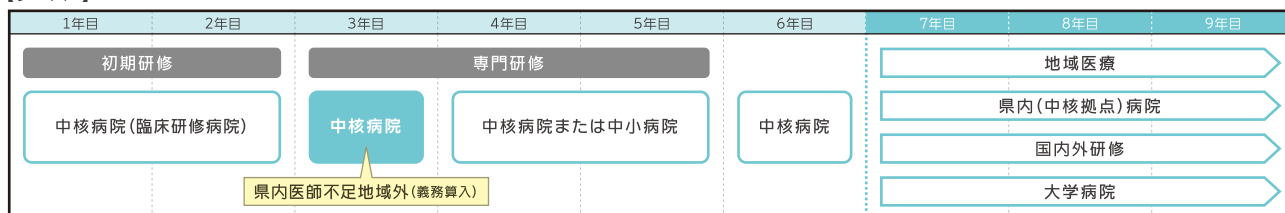
生涯を通じた
キャリアパスの作成

専門医・認定医の
取得支援

キャリアパスのイメージ

① 医師修学資金貸与制度：義務年限6年のケース

【ケース1】

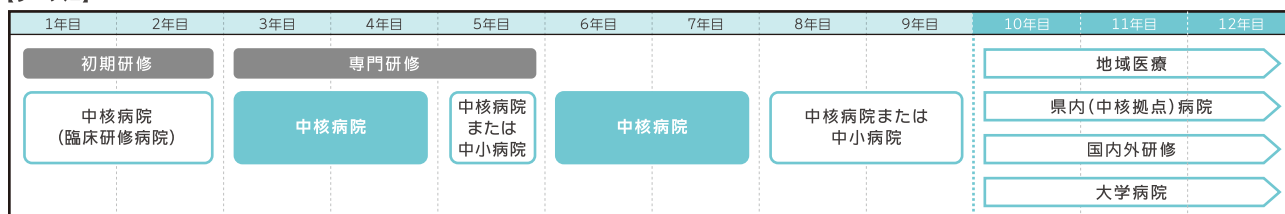


※認定専門研修…医師不足地域内では受けることが困難な研修として知事が認める場合、1年を限度として県内の医師不足地域外で行うことができます(ただし義務の最終年度を除きます)。また、県内では研修ができない特殊な技能習得等に関し、県外での研修を認めます。この場合に、県内での研修は従事期間に算入し、県外での研修は従事期間に算入しません(猶予扱い)。

※初期研修を医師不足地域外の県内の医療機関及び県外の医科大学の附属病院で行った場合は、その期間は従事期間に算入しません。

② 地域医療医師修学資金貸与制度：義務年限9年のケース

【ケース2】



【ケース3】



※出身大学の附属病院の専門研修プログラム等に登録し、県外医療機関で複数年勤務することも可能です。

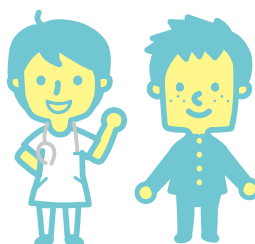
※県外での研修は従事期間に算入しません。

義務期間内の出産・育児について

産前産後8週の特別休暇は義務期間に算入します。
また、育児休業は猶予期間(義務期間に不算入)となります。

義務期間内の医学部大学院への在学について

医学部大学院に在学しているときは猶予期間となります。



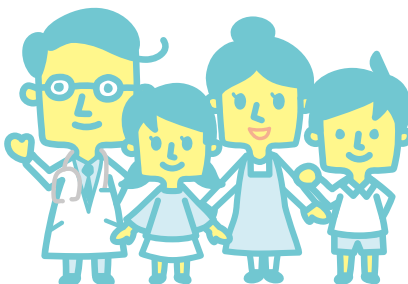


茨城県は、医師のUIJターンを推進しています



茨城県は住みやすい！

茨城県は、東京にほど近い「都市部」と自然に囲まれた「農村部」が共存する、多様な生活が選択できるエリアです。仕事もプライベートも含めた理想のライフスタイルを、茨城で見つけてみませんか。



温暖で穏やかな気候

太平洋沿岸部特有の温暖で穏やかな気候に恵まれ、年間を通して暮らしやすいのがいばらきの特徴です。南部にかけては関東平野が広がり、平地が多いこともあって冬でも雪が少なく、雪害の心配ありません。



ひろびろとした住環境

茨城県の1住宅あたりの敷地面積は、全国最大。(424.79㎡) 全国平均の約1.6倍もの広さを誇ります。ひろびろとした住環境で、ゆとりある暮らしを送ることができます。



都心へのアクセスが充実

茨城県は東京へのアクセスも充実。秋葉原→つくば 45分、上野→水戸 65分 移住後も気軽に都心へ行くことができます。都会との二地域居住という選択にも最適です。

茨城県は、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に挑戦します。

急速な人口減少・少子高齢化の進行など、これまでに経験したことのない時代の転換期を迎える中、この時代の変化に的確に対応し、未来に希望を持つことができる「新しい茨城」づくりを県民とともに推進していくため、平成30年度からの県政運営の指針となる新たな県総合計画を策定しました。

県内医療機関の最新求人情報を網羅！

県内の各医療機関からの求人情報はもちろん、県内で勤務しながら医師としてのキャリア形成をオールいばらきで支援します。



茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～

県民が「住み続けたい」と思えるような、県外の人々が「住みたい」と思い移住するような、魅力的な未来志向の「茨城型ライフスタイル」を送ることができる環境をつくっていきます。ご期待ください。

教育環境も充実しています！

茨城県は2016年4月に、「一人一人が輝く教育立県を目指して～子どもたちの自主性・自立性を育もう～」を基本テーマに「いばらき教育プラン」を策定し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスの取れた子どもたちの育成を推進しています。

茨城県地域医療支援センターでは、関係機関が一体となって、医師の皆様を支援しています。茨城県での勤務についてご相談したいことがありましたら、ぜひご一報下さい。



<https://ibaraki-dl.jp/uij/>



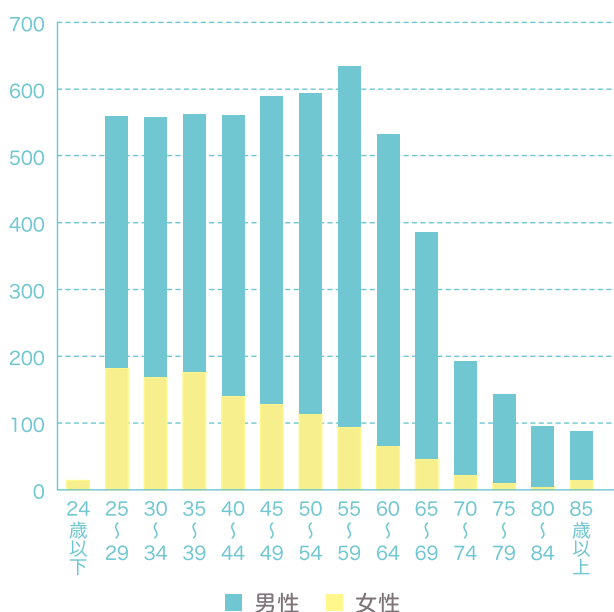
女性医師を応援しています



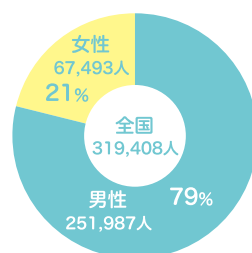
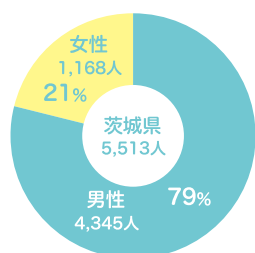
女性医師の応援を通して医師全てが
働きやすい環境の実現を目指しています

かつては10%未満であった女性医師の割合は、
若い世代においては30%を超えて推移しています。

●年代別医師数(茨城県)



●年代別医師数(茨城県)



女性医師就業支援相談窓口

茨城県医師会では茨城県からの委託を受けて女性医師の総合的な相談窓口を開設しています。医学生、研修医、女性医師のみならず男性医師からの相談を受け付けています。これから茨城県で働こうと考えている医師の皆様もぜひご活用ください。(ご利用に医師会加入の有無は問いません)

育児・介護支援

育児・介護と仕事の両立を
応援します。

相談窓口と県内の市町村窓口が連携することにより、'地域力で子育て・介護、の茨城スタイル実現を目指します。妊娠・出産・育児・介護、これらの悩みは一人では解決できません。プライバシーに配慮しながら、丁寧に寄り添った支援を心がけています。

就業・復職支援

就業先の相談、もう一度働きたい、
キャリアアップしたいという思いの
実現にむけてバックアップします。

県内の医療機関・大学・県と連携し、女性医師と復職研修病院をつなぎます。就業・復職希望者へは現役女性医師アドバイザーが相談支援を行いながらマッチングをサポートしています。もちろん就業後のサポートも万全です。

勤務環境改善支援

男性も女性も
働きやすい職場環境になるよう
勤務先医療機関をサポートします。

勤務環境改善研修会や男女共同参画フォーラム、医学生・研修医をサポートするための会などを定期的に開催し、女性医師支援の推進啓発活動を行っています。また、保育支援体制の整備、特に病児保育については運用に向けて積極的にサポートをしています。

保育支援情報

茨城県は、仕事と子育ての両立に役立つ支援制度があります。子育てには様々な不安や悩みがつきものです。県内の市町村には多様な子育てサービスがあります。上手に活用して、仕事も子育ても楽しめるようにしましょう！

詳しくは

いばらき ドクターサポート

検索

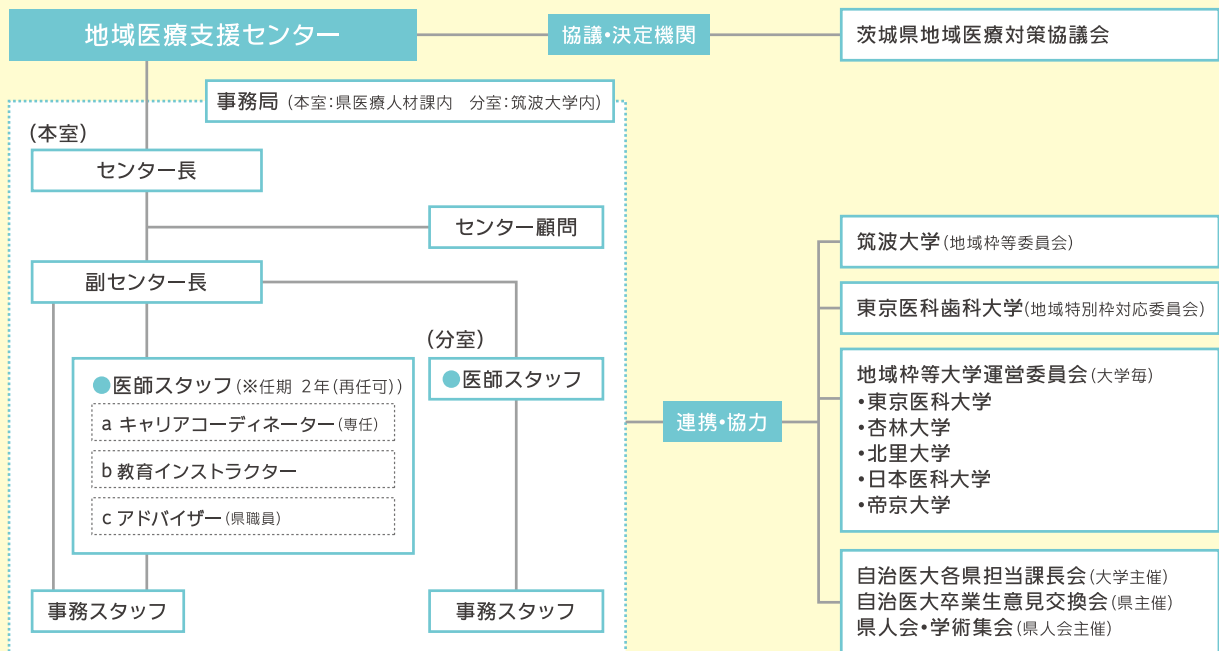


組織・スタッフ体制



県内の医療機関を代表する医師が、全力で若手医師をサポートします

地域医療支援センター 組織図



地域医療支援センター スタッフ体制

センタースタッフ

センター長

小島 寛(筑波大学医学医療系教授、茨城県立中央病院 副院長)

副センター長

砂押 道大(茨城県保健福祉部医療局医療人材課長)

センター顧問

山口 巖(茨城県医療改革担当顧問)

キャリアコーディネーター

山内 孝義(株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 副院長)
柳生 久永(みなのかクリニック内科呼吸器科 東京医科大学茨城医療センター 内科医師)
瀬尾 恵美子(筑波大学附属病院 総合臨床教育センター部長)
五味 聖吾(筑波大学附属病院 病院講師(心臓血管外科))
田中 磨衣(筑波大学附属病院 小児科医師)

教育インストラクター

米野 琢哉(水戸医療センター 副院長(血液内科))
堀米 仁志(筑波大学医学医療系 小児科教授 茨城県立こども病院 副院長兼医療教育局長)
清水 圭(株式会社日立製作所日立総合病院 呼吸器内科主任医長)
湯原 孝典(土浦協同病院なめがた地域医療センター 副院長兼内科部長)
渡辺 章充(土浦協同病院 小児科部長)
中村 蓉子(土浦協同病院 小児科医師)
小川 良子(筑波大学附属病院 総合臨床教育センター副部長)
野崎 礼史(茨城西南医療センター病院 消化器外科科長)
海老原 至(水戸済生会総合病院 副院長(腎臓内科))

アドバイザー

清嶋 護之(茨城県立中央病院 呼吸器外科部長)
天貝 賢二(茨城県立中央病院 消化器内科部長)
石田 久美子(潮来保健所長)
井澤 智子(日立保健所長)
永田 博之(常陸大宮済生会病院 消化器内科医師)

地域枠大学協力員

石川 欽也(東京医科歯科大学 教授)
山本 謙吾(東京医科大学 副学長補)
黒田 雅彦(東京医科大学 副学長補)
平山 陽示(東京医科大学 教授)
富田 泰彦(杏林大学 准教授)
鶴岡 秀一(日本医科大学 大学院教授)

イバラキ ドクターズライフ

茨城 地域医療

検索

<https://ibaraki-dl.jp/>



問い合わせ先

茨城県地域医療支援センター

(茨城県保健福祉部医療局 医療人材課 医師確保G内)

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6

TEL:029-301-3191 FAX:029-301-3194 E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp

医学生や医師のみなさんに茨城県内での研修・勤務に役立つ情報を提供するi-doctor会員を募集中です。(地域医療支援センターホームページから登録できます)